

ぼくたち、私たちの就活

就職実績98.5%のつくりかた

福井工業大学の就職率は、平成27年度卒業生で98.5%。その前の2年間を含めても、ずっと98%台をキープしている。学生ひとりひとりの頑張りはもちろんあるが、入学時から一貫してキャリア形成・就職支援を行うキャリアセンターの存在も大きい。「就職に強い福井工大」の実績を見てみよう。

担当者に顔を覚えてもらうまでとにかくやる気を伝えました

野桑志遠さん（工学部環境生命化学科4年生）は、3年の冬の学内説明会で興味がある会社を見つけた。地元石川県で化学系の専門知識が活かせる場所に就職したいと考えていたところ、金沢にメイン工場を持つ「大阪有機化学工業」という会社とめぐり会ったのだ。3月には志望をここに絞った。

「他は受けませんでした。成績はあんまりいい方じゃなかったから、とにかくやる気を見せようと思って、3月の説明会にも行き、その翌日に1次試験を受けました。さらにその2日後にあった別の説明会場にも乗り込んで、4日間のあいだに3回、会社の担当者と会ってアピールした

んです」
そのかいあってか、担当者にはしっかりと顔を覚えてもらい、内定を勝ち取った。

企業の方の話を聞いて共感ここしかない！と決めた

大井真夏さん（工学部電気電子情報工学科4年生）の場合は、2年生の時に出会いがあった。普通より約1年早い2年生の後期から研究室に所属し、先生の紹介で企業の方の話を聞く機会があった。その時出会ったのが、「中日本ハイウェイエンジニアリング名古屋」。高速道路のメンテナンスや工事を行う会社だ。人の生活を支える仕事としてインフラ事業に興味があったので、インターンシップを経て、3年後期にはここ1本で行くと決めた。

原子力の専門知識が生かせて人相手の仕事がしたい

梶紗矢香さん（工学部原子力技術応用工学科4年生）は、「千代田テクノル」という放射線商社に内定した。放射線医療機器や防護用品を扱う商社だ。

「高1の時に東日本大震災があってエネルギーや環境問題に興味を持ち、この学科に入りました。でも勉強しているうちに、技術職より人相手の仕事の方が性に合っていると感じて、人が相手に専門が生かせる仕事を探していたんです。そうしたら研究室

の先生が、こんな会社があるよと教えてくれて」

先生がリストアップしてくれた中から企業見学にも行き、3月には志望先をここに決めた。

「会社には学科の先輩がいたので、先輩が残した面接試験の資料などを参考にして、キャリアセンターで何度も面接の練習をしました。面接を受けるのは初めてだったので、とても役に立ちました」

**就職支援満足度95.2%
キャリアセンターで鍛えられた**

「キャリアセンターは活用すべし！ですよ」と梶さんは力説する。「一人でやるよりずっといいです。履歴書も、志望先をひとつに絞っていたので失敗は出来なと思って、アドバイスももらっては直し、の繰り返しで、約2ヶ月かけて書き上げました」

キャリアセンターには、学科ごとにキャリアカウンセラーなどの専門職員がいて、いつでも相談ののってくれる。野桑さんも大井さんも、面接のマナーや履歴書の書き方では鍛えられたと口を揃える。

「履歴書の添削は厳しかったです。表面的な書き方だと、職員の方に突っ込まれて書き直し。深く考えな



学生が気軽に相談できる開放的なキャリアセンター。民間企業経験のある職員やキャリアカウンセラーが、学生ひとりひとりにあった指導に取り組んでいる。

いと書けない。毎週通って何度も書き直しました」と野桑さん。

3年生からの具体的な就職支援ガイダンスやセミナーに加えて、福井工大では、1年生の時からキャリアゼミやキャリアデザインといった仕事や人生設計について考える授業がある。大井さんは、2年生時のキャリアデザインの授業で、インフラ系の会社に入った先輩の話を聞き、その先輩がいた研究室に入ろうと思ったという。

「早めに研究室に入ったのが僕の要因だったと思います。企業のこともよく知ることが出来たし、先輩の就活も身近で見られたので参考になりました」

他の2人にも、就活の勝因は何だったか聞いてみた。野桑さんは「何度も担当者に会いに行った熱意のアピール」と言う。梶さんは、「こんな仕事がいい！と早くから周囲に宣言していたことかな」。宣言することで、先生、先輩、同級生から情報が集まり、意中の企業にめぐりあった。

第一志望の企業に就職を決めた3人。その経緯や勝因はそれぞれだが、大学側の就職支援をうまく活用して、自分の夢に向かって一歩踏み出した。これが就職実績98.5%につながっていくのだ。



野桑志遠さん 石川県鹿西高校出身。昔からの友人が地元にいるので、北陸エリアでの就職を希望していた



大井真夏さん 富山県砺波工業高校出身。ノートに書かれているのは、実際には使わなかった面接用の台本



梶紗矢香さん 石川県小松明峰高校出身。元々は医療系の大学に行こうと思っていたので、会社では放射線医療分野に進みたい



学科ごとの専門職員がマンツーマンでアドバイス。就活シーズンには毎週通う学生も多い



自分の道を、自分らしく歩むために。

今、必要な情報がここにある。